

第一回「家老の日記で学ぶ古文書」

○「岡本元朝日記四十六（混架七一三八〇―四六）」

宝永五年（一七〇八）

六郷東根村で起きた殺人事件について、久保田城下で取調が行われます。

○戸村十太夫殿より与下石井藤馬ヲ被付、六郷東根村百姓

出入候者共兩人「善三郎・同二男丹波也」繩下・放者兩人

「与吉・同二男千太也」、其外肝煎・老百姓二三人被指越候、

口ヲ為尋候也

【五月二十五日】

○戸村十太夫殿より与下石井藤馬ヲ被付、六郷東根村百姓
出入候者共兩人「善三郎・同二男丹波也」繩下・放者兩人
「与吉・同二男千太也」、其外肝煎・老百姓二三人被指越候、
口ヲ為尋候也

事の起こりは五月二十一日に遡ります。素行の悪い善三郎の長男九兵衛のために、善三郎父子は家を取り壊され、村から追い出されます。善三郎の長男九兵衛と二男丹波は逆恨みをして、訴え出た与吉の家に向かいます。

右善三郎嫡子九兵衛と二男丹波

每人連て兄脇刺抜指一牙ハ湯と棒

持して与吉殿へ押込打切りしを

二男子と持て与吉殿へ入して

打て切りし丹波と肩筋を一掃つ

て丹波は引いて纏て九兵衛は

切りしと与吉殿へ切先が

之をとりて子名將、下一傳突し処九之
を傳とて、この切りくはれしを傳と
捨後へさらし、由は射とて言ふ地にて、向
場子、と蔵も棒にて、向ふ九之、丹波
逃るる、追けく九逃延る、海よりし
紅にて、幸九之、お言ふかり、小屋にて
死す由

【五月二十六日】

右善三郎嫡子九兵衛・其弟丹波兩人連にて兄八脇刺抜持、弟八鎌と棒持候て与吉家へ押込打かゝり候を、与吉二男千太鑓を
持候て先へ入候て与吉に打てかゝり候丹波を肩「右ノ方也」を
一鑓つき候、是にて丹波引候、続て九兵衛わきさしにて切かゝ
り、与吉首へ切先かすり候処を是をも千太臍ノ下一鑓突候処、
九兵衛其鑓を手くり切かゝり候故、千太鑓を捨後へさり候由、
其時与吉も鑓にて向ヒ嫡子ノ与蔵も棒にて向ヒ候故、九兵衛・
丹波逃候間追かけ候へ共逃延候故歸り候よし、然ハ其夜九兵
衛ハ善三郎かり小屋にて死候由

善三郎長男九兵衛の死により、久保田において詮議が行われ、与吉と二男千太は正当防衛が認められます。善三郎父子は籠舎を申し付けられ、五十日後には一郡払いとなります。その際、意趣(うらみ)を持たぬよう釘を刺されたのです。

○六郷東根村善三郎

丹波父子、籠舎免仙乏一郡払候旨申
付候也、其上与吉・千太父子二意趣不可存旨申渡候也

【七月九日】

○六郷東根村善三郎 ■丹波父子、籠舎免仙乏一郡払候旨申
付候也、其上与吉・千太父子二意趣不可存旨申渡候也